

保育の中の物語(10)

「二人で」から「一緒に」へ

樹上に揺れるミカンの実が

教えてくれたこと

岸井慶子

三年保育の年長組の秋。「あー、先生、先生、そこー、実、実がはえてる」とA男が東屋あずまの竹垣に乗って叫んだ。「実が、はえてる」という言い方が面白くてカメラを向けた。A男の言う通り、見上げたミカンの木の葉の間から、ちょうど伊予柑ほどの大きさのきれいな黄色の実が見える。

呼びかけに応じて保育者が走ってくる。そして、すぐ脇にあるつるバラのとげを気にすると「痛くないよー」「バラのとげをさ、全部はずせばいいんじゃない」などと口々に威勢のいいことを言う。実を発見した興奮が伝わってくる。

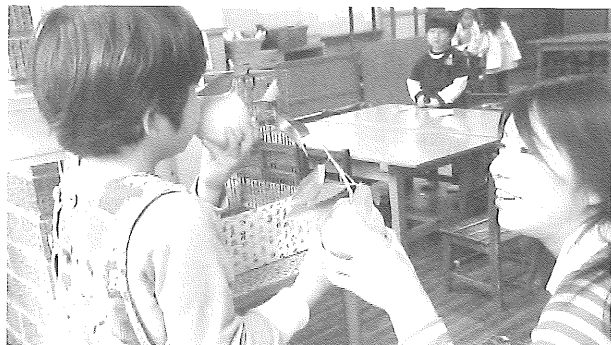
その後はこちらの予想通り、砂場用レーキ、庭掃き用の長柄ほうき、落葉を集める熊手などを持ってきて試す。届かないとわかると、二本をつなげたり、



時には下から放り投げたりする。保育者の肩に乗ってもみるが及ばない。木に登ろうとするが、なかなか難しい。そのうち、最初の発見者たちはほかの遊びへと抜けていき、U男一人が木登りに成功した。

「ウアー、やったー。やった。ねーえ、誰かー」樹上からU男が叫ぶ。少し離れた所に実が転がり落ちた。少し前に落ちたもう一つと合わせて二つを、樹の下にいたD男がゆっくりと拾い上げ、庭の隅で水やりをしている用務員さんの所に持っていく(多分、この時、U男は樹から下りることに集中して、D男の行動は見えていない)。U男が樹の上から下りてきた。自分の「ミカンが用務員さんの手に渡っていることを見つけると「えーっ、おれがとったんだよ」と走りだし、大声で何やら説明し、用務員さんから葉付きのミカン二つを取り戻す。D男は何も言わず、その場から立ち去る。

その後、U男は幼稚園中のクラスと保健室を順番に回り、担任と周囲に集まってくる幼児たちにミカンを見せながら「おれ、一人でとったんだよ」「両方一人でとったの」「必死でとったの」「ぐらぐら揺れる竹垣に乗って、おサルさんみたいに」と、自分が、一人でとった喜びと誇らしさを表し、受け止めてもらう。保育者が「木に登ってとった人は初めてよ。高枝切りでとったことはあったけど」と言うとも、おれは木登りでとったの」と誇らしく言う。



四歳児には「とげがあつて危ないから無理」と言う（最初に保育者からとげを心配されたことがこでつながる）。また、保育者とのやりとりから「いいにおいだよ」「かいでござらん」「ミカンの下の部分に鼻をつけながら」ここが「いいにおい」「（葉は）あんまりいいにおいじゃないよ」など、ミカンの香りへの気づきや言葉が聞かれるようになる（最初のクラスから最後の保健室に行くまでの間に、説明や誘い方が変わっていくのがわかる）。

そして、「これをどうするの？」という問いをきっかけに「みんなで食べるの」「みんなに分けてあげようと思つて」「一人一個ずつ、ほら中に入つていりゃ（ミカンの房をイメージしているらしい）」という言葉が聞かれるようになる。初めは保育者の問いへの答えとして、途中からは出会った友達に自分から説明する言葉として（この辺りから、U男の心の中に「ほかの人」が存在し始めたのではないだろうか。そして、二個のミカンではどうも足りないのではないかと思ひ始めたように感じられた）。

U男はミカンを自分の保育室の机の上に残し、再び庭に出ていく。もうミカンの樹の周りには誰もいない。樹の上を見上げ、ポケットに手を入れ、周囲を見回し、誰かを探しているようだ。先程までの意気揚揚とした自信に満ちた姿とはまるで別人のようだ。少し寂しげでもある。



少しして、U男は庭の奥で遊んでいるD男を見つけ、D男の所に行って何か話をする。すると、D男は仲間に「ちよつと手伝つてくるから」と断り、遊びを抜ける。U男も「すぐ終わるから」と言葉を添え、二人はミカンの樹の下までやつてくる。

U男ではなくD男が登ろうと、何度も何度も必死に挑戦するが、なかなか登れない。(手伝いを頼んだ時に、何か約束でもしたのであるか) U男はD男のお尻を下から両手で支えたり、励ましたり、少し離れた所から実のある位置を確かめたり、先に登って「ここに置いておくから」とほうきを枝に乗せたりする。決して、自分がわれ先にミカンの実をとろうとはしない。結局三つ目のミカンは収獲できなかった。

「自分が一人で」とった」から「みんなに」分ける」「一緒に」食べる、とる」への変化がよくみえた事例だ。この日、偶然にもU男の一番の仲良しが欠席だったことも、このエピソードの背景にはあるだろう。七人の保育者がそれぞれに対応の仕方で「すごいねー」とU男の気持ちに共感しながら、少しずつU男の世界を広げていった。「自分」を抑えて「みんな」になったのではなく、「一人で」が充分に受け止められて「みんな」や「一緒に」が生まれるのだと、再確認した。

(鎌倉女子大学短期大学教授)